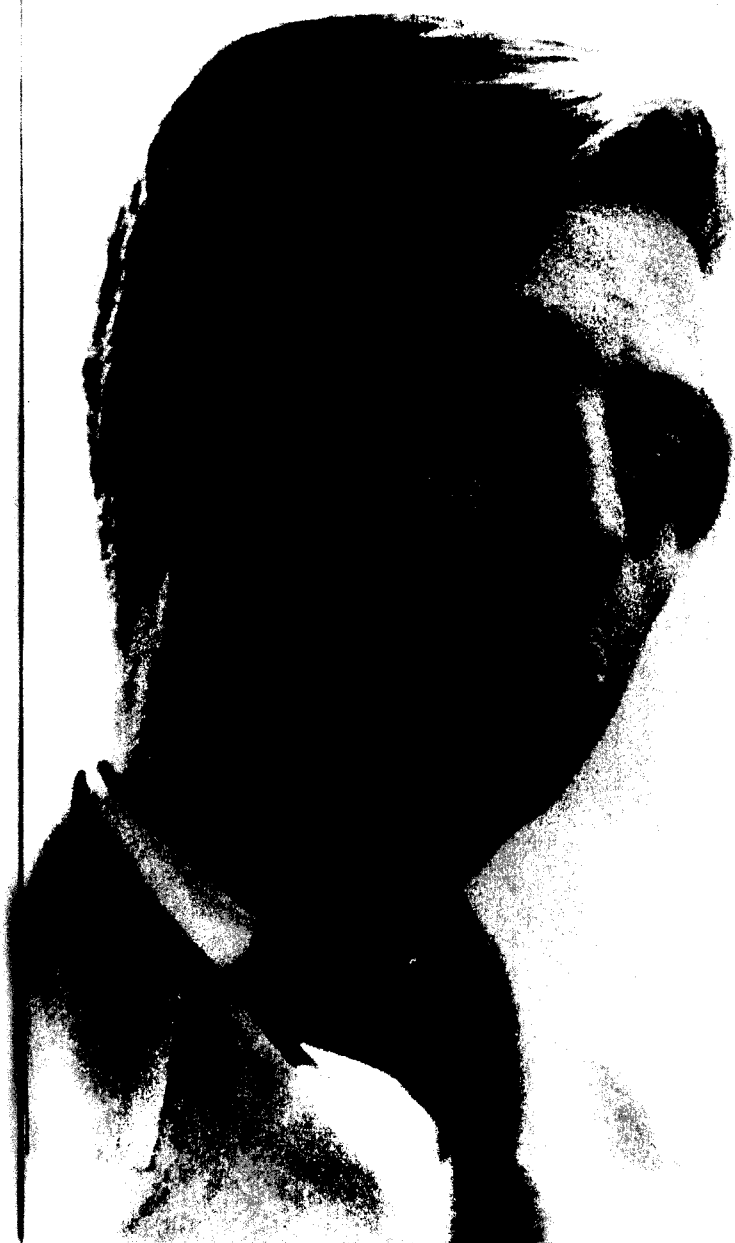


商店街まちづくりの祖

石川栄耀と美観商店街。

東京の戦災復興計画を立案し、一面焼け野原の東京を現在の繁栄へと導く基礎を築いた男がいた。彼が手がけた計画のひとつが、昭和二十三年に制定された「東京都美観商店街」だ。「美観」の思想に、商店街まちづくりの原点を見る。



いしかわ ひであき 都市計画家。
1893(明治26)年山形県生まれ。
東京帝国大学土木工科大学卒業。
愛知県で都市計画を手がけたのち、
1943年東京都技師となる。戦後、東京の
戦災復興計画を立案し、48年東京都建設局長に就任。
日本都市計画学会創設者のひとり。55年没。

中島直人 文

text by Naoto Nakajima

なかじま なおと 東京大学大学院工学系研究科
都市工学専攻助教。1976年東京生まれ。
東京大学工学部都市工学科卒業、同大学院
修士課程修了。博士(工学)。専門は都市計画。
共著に「景観法を活かす」「都市美」「近代大阪と都市文化」など。

か つて「美観商店街」という
粋な名前を持った商店街が
都内各所に存在していたの
をご存知だろうか。

例えば、都内でも有数の元気な商店街である「中野サンモール商店街」が三十年ほど前まで「中野北口美観商店街」と名乗っていたことを覚えていないだろうか。いや現在でも小岩駅前「小岩フラワールロード商店街」の正式

名称が「小岩駅前通り美観商店街」であり、北千住駅西口の「きたろーど」の正式名称が「北千住駅西口美観商店街」であることを知っている方もいるだろう。また、池袋駅東口でショッピングを楽しむ人は、「池袋東口美観商店街」の名前の入ったフラッグを時に眼にすることもあろう。

この「美観商店街」という名称は、終戦後間もない昭和二十三年に、当時の東京都都市計画課長の石川栄耀が考案した東京都美観商店街制度に由来する。

東京の戦災復興計画立案の責任者として、一面焼け野原の東京を現在の繁栄にまで導く最初の基礎を築いた石川

は、一般には新宿歌舞伎町の建設で知られている。日本では貴重な都市広場であるコマ劇場前広場(現シネシティ広場)や「歌舞伎町」という町の名前は石川が発案したものである。石川栄耀という都市計画家は、人々が交歓する都市のコミュニティの中心として盛り場や商店街を重要視し、全国各地でその育

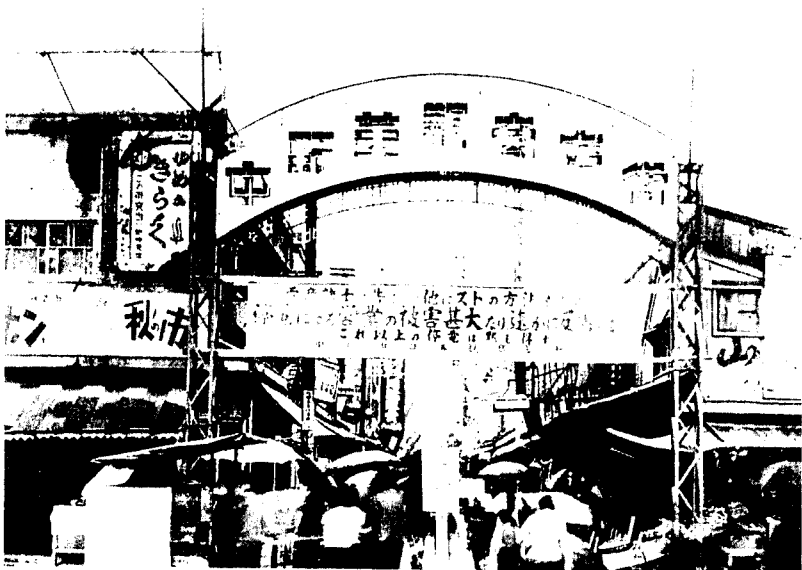
成に携わった人物であった。

「美観商店街」は、その石川が「市民の社会生活の中心となる商店街にこれを指定して、特にその街路の美化に意を注ぎ、市民の美的観念の昂揚を図り、以つて都市全域の美化に役立たせようとする」(昭和二十三年四月二十七日)という目的で、制度化したものである。

当時の指定条件は、すでに相当の美的環境があり、今後なお美観整備の効果がある商店街で、かつ地元で美観整備の熱意のある商店街というものであった。実際には、神田から銀座までの中央通り沿いに連続する商店街、都内各所の伝統的な盛り場商店街、山手線や郊外鉄道の駅前商店街型など都内三十一カ所が指定された。この中に、小岩、北千住、池袋などの、現在でも健在の「美観商店街」が含まれていたの

「美観」に込められた、まちづくりの思想とは。

「美観商店街」の「美観」というフレーズには石川栄耀の「日常生活の中心である商店街は美しくなければならぬ」という思想が込められている。石川は美観商店街構想を最初に発表した際に、「東京に幾つかの『美観通り』を設置しその通りは(特に沿道市民の自覚運動により)街樹の手入れ、歩道花壇の



中野サンモール商店街の前身、中野美観商店街の入口。昭和26、27年頃。「サンモールの歩み」(中野サンモール商店会)より

東京都美観商店街(昭和23年制定。計31カ所。地名は当時のもの)

- | | |
|-----------------------------|---------------------------|
| 1 神田 神保町交差点～今川橋際 | 16 西荻窪 西荻窪2丁目～大宮前6丁目 |
| 2 日本橋 今川橋際、八重洲橋際～京橋際昭和通り交差点 | 17 高田馬場 JR高田馬場駅東口～環5-1交差点 |
| 3 人形町 人形町交差点～鐘橋際 | 18 目白 JR目白駅西側～補73交差点 |
| 4 銀座 京橋際、数寄屋橋際～新橋際地交差点 | 19 池袋 JR池袋駅前通り～池袋2丁目交番 |
| 5 有楽町 日比谷交差点～数寄屋橋際 | 20 巣鴨 JR巣鴨駅北口～補79交差点 |
| 6 新橋 新橋際～虎の門交差点 | 21 十条 十条仲原1丁目～補85交差点 |
| 7 大森 JR大森駅山王口～環7交差点 | 22 本郷 放10補95交差点～本郷2丁目 |
| 8 大井町 JR大井町駅東口～補28交差点 | 23 三ノ輪 放12環4交差点～補107交差点 |
| 9 五反田 JR五反田駅西口～環6交差点 | 24 千住 JR北千住駅西側～放12交差点 |
| 10 道玄坂 JR渋谷駅西口～放22交差点 | 25 立石 奥戸橋際～江戸川水道路交差点 |
| 11 三軒茶屋 子育地蔵前～目黒不動入口 | 26 小岩 JR小岩駅南口～小岩3丁目 |
| 12 新宿 JR新宿駅西側～補69交差点 | 27 錦糸町 江東橋4丁目～江東橋際 |
| 13 中野 JR中野駅北側～補71交差点 | 28 阿佐ヶ谷 阿佐ヶ谷3丁目～阿佐ヶ谷1丁目 |
| 14 高円寺 高円寺6、7丁目～補71交差点 | 29 蒲田 JR蒲田駅西側～女塚4丁目、御園1丁目 |
| 15 荻窪 JR荻窪駅北口～環8交差点 | 30 上野 JR上野駅前～上野広小路1丁目 |
| | 31 浅草 放30補103交差点～吾妻橋際、芝崎町 |



上・板橋区大山ハッピーロード商店街の前身、大山銀座美観街。昭和35年撮影。現在はアーケードとなっている(提供・板橋区)。
下・美観商店街のひとつ、北区十条銀座商店街。昭和43年撮影(写真・加藤嶺夫)



設置は勿論、広告看板、ショウウィンド、陽覆い迄統制し町全体を一つの芸術品たらしめ様と云うものである。此はその町の人を幸福にする許りでなく、都市全体を幸福にし、日本を幸福にさへするかも知れない(『都市美新聞』四号、昭和二十二年九月)と書いている。

また、石川は自分たちのまちは自分たちの力で美しくするというまちづくりの原則を重視し、東京都はそれを支

援するという仕組みを考えていた。昭和二十三年に指定された美観商店街のうち、銀座、大森、中野(北口・南口)、高円寺、池袋(東口・西口)、巣鴨、本郷、三ノ輪、千住、立石、小岩などの商店街で、地元業者や学識者等で構成された美観商店街協会(名称はさまざま)が設立された。また、東京都指定の美観商店街以外にも、「自由が丘美観街」、「大山銀座美観街」(現在の「大山ハッピ

ーロード商店街」の一部)、「高橋美観商店街」(現在の「高橋のらくろード」)など、自主的に「美観」を名乗る商店街も生まれた。

東京都は美観商店街協会の活動を支援し、商店街の美化を指導した。自主原則を強調した結果、財政的支援との連動が図られていなかったため、たんに東京都による「お墨付き」で終わってしまった商店街もあったが、自力で